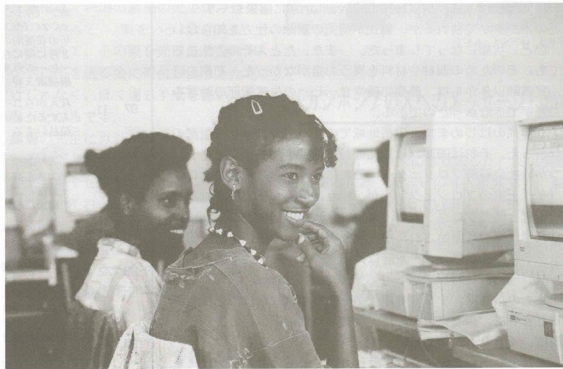




わかちあい プロジェクト NEWS No.10

1997 Christmas

エリトリヤ



習いはじめたばかりのマイコン

厳しさの中で自由を楽しむエリトリヤ

岡安 智生

エリトリヤは世界の最貧国の一つに数えられ、都市部の失業率90%。生まれてからまったく教育を受けたことがない人が、国民の80%にのぼる。日本人の感覚からは考えられないような厳しさの中にある。家族は総出で生活費を稼がなければならない、小学生でも、働くのは当然、三食食べるのも厳しい、という状態が普通くらいだ。

デカムハレに引越してすぐに、庭にたくさん木や花を植えた。大家さんのついで、水をやするワーカーを雇ったら、60歳くらいのおじいさんが、もとは何色だったんだろう、というほど汚れた服を着てやってきて、厳しい日差しの中で黙々と水をやりつけていた。なにしろたく

さん植えたので、1時間では終わらない。このときは私の方は、まだ仕事はまったく始まっていなかったの、家の中でCDを聴き、紅茶を飲みつつ、その様子を見ていた。その時は、「なんで俺はこうしてここでゆったり座っていられて、彼はこの炎天下の中、わずかばかりの収入のために、汗を流さなければならないんだろうか...」と考えさせられた。なにが理由があって、そんなのか?それは違うよな。むしろ彼のほうが、沢山辛いことがあったはずで、そのぶん幸せであるべきだ、とか、優雅にしていられるから、幸せというわけではないけれど、人々の日々の生活の辛さを間近に見た一件だった。(4ページに続く)

紅茶とコーヒープロジェクト

タイ山岳民族
アラビカコーヒー生産とマーケティングプロジェクト

リチャード マン

アラビカコーヒーはいまから35年ないし40年前に宣教師によりタイ北部の山岳民族に最初に紹介された。初期には、コーヒーは村の回りの小さな土地で栽培され、生産に関する技術を欠いていたため貧弱な管理しかできなかった。コーヒー豆は、乾燥するまで木に放置したのち収穫し、米の脱穀機で外皮を取り除いていた。市場は地域内で、価格は低く、収穫は年間、数トンに過ぎなかった。導入された元のコーヒーは、さび病 (Hemileia vastarix) に感染しやすく、ほとんどの木がやがて枯れるか、農民が病気の駆除の仕方を知らないために、ひどい状態になってしまった。また、たとえその方法を知っていても、そのための器材や材料を買うお金がなかった。初期の時代には、宣教師以外からは、農業知識やコーヒーの生産管理の助言を受けることができなかったのである。

1970年代のはじめまで、山岳地域でのアラビカコーヒー生産の拡大はなかった。それは国連 (けしに代わる転換作物プロジェクト) やいくつかの社会経済プロジェクト、それにロイヤル高地開発プロジェクト (タイ王室のプロジェクト) が、相互に協力して実施された。コーヒー研究と開発プログラムが、農業NGOや王室タイ政府の機関で1970年代半ばまでに開始されたが、現在では国連や他の援助機関のプロジェクトはなくなり、タイ政府は、国立チェンマイ大学農学部「高地コーヒー研究、開発センター」でその働きを継承している。アラビカコーヒーの市場は、1980年代から90年代にかけて生産高が増加するとともに、徐々に広がった。現在の年間のアラビカコーヒーの生産高は、400トンである。

しかし、残念ながらこのようなアラビカコーヒーの導入の時代にも生産、研究、開発プログラムは、山岳民が高品質のコーヒーを生産するための教育や指導に直接係わることは少なかった。その結果、国際市場にも提供できるつぼの整った豆が、山岳民により生産されることが少なく、また、マーケティングに関しても、山岳民の場合は、村まで買い付けにくる仲買業者に依存しており、安い値段で売らざるをえないのである。山岳農民を直接に支援しようとする「アラビカコーヒー生産とマーケティングプロジェクト」の支援なしには質の向上と生産の増加の方法はない。



2 ラワウの村でのマンさん、カレンの村で長老たちと話し合う。カレンの村の礼拝が終わって

経過と今後の支援計画

- 96 11 チェンマイおよびボガオ村訪問
- 97 4 1トンを実験的に購入
- 97 7 ボガオ村、ゴーション村を訪問し、村人と協議する
- 97 11 村人からコーヒー豆を購入するための資金を一部前払いする
- 98.1.17 マンさん来日してコーヒー会社とコーヒー豆の賣の向上について話し合い
- 98.1.20 わかちあいプロジェクト例会で発題
- 98.1.22 タイの山岳民族の状況、とくにマンさんが取り組んでいる農業更生の働きについて報告
- 98 4 三つの村およびチェンマイ大学のコーヒー園から、コーヒー豆購入
- 98 5 コーヒー豆の集荷センターの建設

※コーヒーには大きく分けて2種類あります。インスタントコーヒーにするロブスタ種は低地で生産できます。アラビカ種は、高地でないと生産できません。

※リチャード マンさんはアメリカバプテスト教会の宣教師としてカレンの村で農業更生の働きとコーヒープロジェクトに取り組みんでいます。

